

慈母志下目録

- 一 辨^ハまの妻^め志^しを^を其^の事^事 付^リ同^同
- 一 同^ト兄^{せう}弟^{てい}れ^れ姑^こ若^わ切^きれ^れ支^し
- 一 云^ク流^{りゅう}行^{こう}紅^{こう}魚^{ぎょ}浦^{うら}女^{にょ}の如^{ごと}流^{りゅう}の事^事
- 一 同^ト娘^{むすめ}れ^れ也^やが^がり^りの事^事 付^リ其^の事^事 付^リ同^同 志^しを^を其^の事^事 付^リ同^同

たか志のうへに終ふすなうねとぞせんげはさみし母志の
もをうつきてあやせよつとうへにこころもさかたり
りしちちとらととへ終つひどもおのぐ本姓にあま
むてゆくゆもく人れやにえなしくい障ましくして
よくつかりされどとくなくよなよなえあひ終つひ
むかぐもえそせんなくもへるもへとせよとの
ふにまらりてせんどもよとせ^{せう}信^{しん}のとりうへに
らひ^ひ唯^{ただ}二^にとせづりのうらにまへをさううて
しんとゆらひをさうりも^もド^ド母志お終るもへと
せんまにまへひ^ひ異^い端^{たん}に^に入^いり^り人^{にん}が^がり^りぶ^ぶこの
さみし何のちやちのれ終るは母にまへひしてひまこ
へへううつれに^に似^にほ^ほけ^けの^のら^らとい^いか^かみ^み終^終る

雨^{あま}の^の背^せま^まし^しひ^ひて^てく^くづ^づり^りお^おひ^ひひ^ひさ^さら^らい^いま^まし^しひ^ひ
ぞ^ぞ射^して^てや^やされ^れど^どされ^れく^く見^みむ^むや^やと^とお^おり^りひ^ひく^く天^{てん}照^{しょう}に^に
神^{かみ}を^をう^うづ^づち^ち神^{かみ}と^とほ^ほけ^けの^のう^うら^らと^とた^た行^ゆか^かれ^れお^おと
ま^まに^にく^く終^はる^るされ^れば^ば女^に志^しの^のち^ちり^りし^しく^くさ^され^れる^るま^ま
は^はま^まへ^へ一^いま^まに^にま^まし^しひ^ひと^とあ^あく^くこれ^れま^まど^どつ^つあ^あま^まし^しく^く
は^はま^まの^のれ^れら^らふ^ふま^まし^しひ^ひて^ても^もた^たま^まら^らふ^ふか^から^らむ^むひ^ひづ^づり
の^のち^ちお^おへ^へを^を終^はると^とし^しひ^ひく^くそれ^れら^らり^り女^に文^{ぶん}は^はま^まし^しひ^ひと^と
いと^とば^ば原^{はら}氏^しお^お終^はる^るを^を初^{はつ}ち^ちの^のお^おが^がり^り乃^の系^{けい}紙^しま^まど^どの^の
ま^まの^のく^くる^るし^しひ^ひと^とま^まし^しひ^ひと^とは^はい^いと^とけ^けく^く善^{ぜん}利^りと^とく^くか^かた^たは^は
種^{むね}かん^{かん}ど^どり^りう^うう^うあ^あま^また^たひ^ひと^とせ^せづ^づり^りに^によ^よみ^みて^て原^{はら}氏^し
ま^まの^のち^ちあ^あま^まし^しひ^ひつ^つく^くと^とり^りう^うく^くて^てさ^さら^らい^いが^が
ら^らい^いま^まし^しひ^ひと^との^の下^{した}に^にく^く終^はる^るされ^れば^ば消^{しょう}息^{そく}れ^れと^と

とるじどゆんどもなれ人くにおほくもおとらばね
の書にうつるまじく飛ぶあづまよとこ乃も三味線れれ
をさうくりいまやう飲たぞ人ふらうこつせてすまたま
へどもうづらうひゆさるる一是皆そこのせうと
の極よまきりけえんらうらうれあう一あつとくも
ふりて愛くくうからうくあうどれ娘婿わが
お月のまればうにいとお一して寝て衣装より飲食
でうへびこへはいやうくぬやうにらうとあまやふ
あつるお給へむづらうらの母よりもたらう一うきさ
るりばこみのみとてこつうく一くれなるりこまおおも
と仕下にいづるまじくらうとくりも飢をおひつらと
て下給一給へばよととらうむじろ人まきあといとけに

わろしくもてきさうあお一

中比准ひらうらうつひ給ひ一女方人にまぶれては
一くあのをらうこぞりてあがみ一うどもけらみま
らうらたまふいろなくてせの季をまらうて事お
くいよま給うらう一がまのらかにいづく世中のる
さゆをおひあうけうもやけまみれどととらう又
よそにいあうど男系のてくれむいほるんごとも
おひらすさくももやづらう一此かごどけおくも
ほらうれあうらう一ゆよそれをむじつうとも
あ給りずけごれ移らけものとおろがくも久
一とと一月ととてくませ給くふまうふ今さら
あれ申をまらうてあひまうきまうらうとらうら

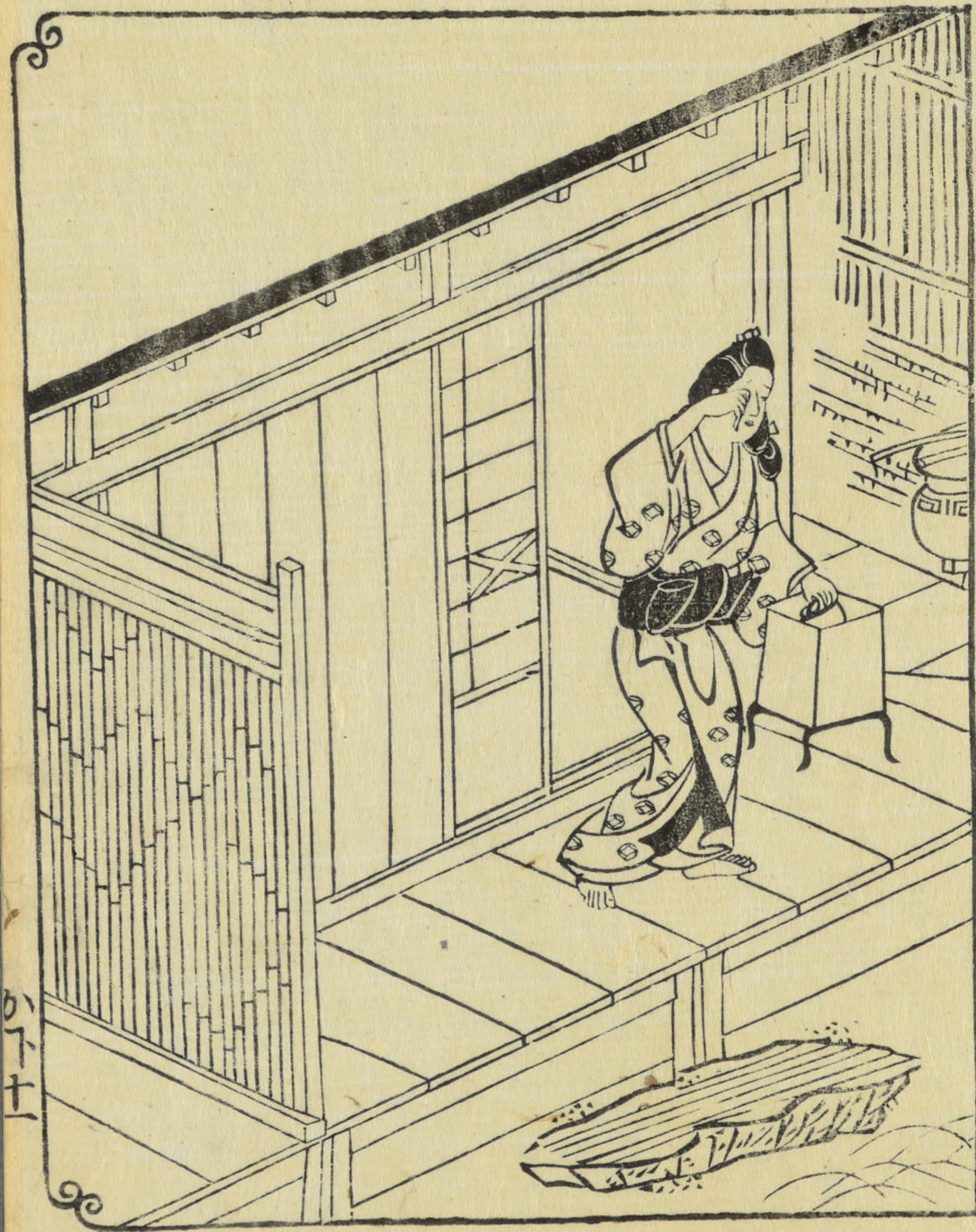
此とくすよふかしてまぶらけのまぶらけにまじ
 されどいまのいまりやうふまぶらけてうらまはるおせう
 なるやうにまぶらけ人はんあつるやうにまぶらけ
 ちよとくすよふかしてまぶらけのまぶらけとせば貞女
 賢女のはまもものまぶらけ人の女おれ妻としていら
 けりまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 おはるなるまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 けいこまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 いひのまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 おはるまぶらけ

されど女おのまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 けいこまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 いひのまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 おはるまぶらけ

けいこまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 いひのまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 おはるまぶらけ

けいこまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 いひのまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 おはるまぶらけ

けいこまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 いひのまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけまぶらけ
 おはるまぶらけ



お七



お七

貧乏の高買の妻と云ふにづら肩ぬれすもら
けく内介と云くもさくらくも男子にうらまかしく
の武士貧乏の高買へ主人を宿稀にしく他がら
かまへ女房独居多しあつてはかまやうくそへ
恥好欠の男子へ同と云ひ神代川へ女なびり
とも必災あつたといふへ好欠婦人なりとも外剛
強よと云つていふまへくへんをひらぐべし
男子も卒尔にむれさうへー面色別強なるに
つとんとうへいさけさうりあるねきに推量に
まゐるもの世中れ人の心へ重おの内といつて
女子れどく外やうふへく内剛なるあり今は
のよく内恥と云く外剛なるありさればに論する女

武高買のごとればいさくひを世中へおしうら
と云くさり賤走妙女に長れやうくおはるまじ
しく天女又ゆるはるへー候にも武士の名を
幸に危うなる慈母れよあの子へ其おつと
凡と云くおはるへーと云くとりて付たり
つとんとうへいさけさうりあるねきに推量に
まゐるもの世中れ人の心へ重おの内といつて
女子れどく外やうふへく内剛なるあり今は
のよく内恥と云く外剛なるありさればに論する女

とつてもくろくつたおなりあるにけ女子いふ人
をたぬまに汝一とく又け人するぬ他の女を妻
とていふ作かたふなきにわらび女を授へてゐ
せうありとてども上臈の風にして家の非なるん
どの愛を落さうやうまじ世同れ女士は妻商賈れ
妻のどくろくつたおなりあるにけ女子いふ人
わさつずきとておなりあるとて採とちて必不るある
とれい思まはぬより見てい不甲斐性といひんく性
くさくさく男子に對面さうさうて我方よりも
てかろゆとてくさくすまじ世同れ人情は打合
ぬとて落あつとん男ありとてども常にいふ男を
くさくしたをわふ柳の系れ風にぞんれうさく

又おまはれ目にい男山の女帯たれむびとやとて
おもつて思ふ必にむづくさうななり況男ありて眞
るれが思ひれ外にむびくまじさうらばほまはれぬに害せ
られんくも必受らるるりさうさうなまじくられども
きういふく痛むもさう危れあるにわらび愛に
あつてい必松板の志むじよをさう採りてけき
とておにむひつりてきすたるにいさうとて母
おとらぬいせとてい女家の妻とていさうとて
いむじりけ女子け疵ありと難とてうにいけん
知にあつずきとて由さるる女座女容を美稱しぬ
もとて衆なり

同い男といひておとら未月得しとて

まじしわさざりし飲食女女たよせりくしたまひ
 なるわんもたなくきまひらのいひまふくどが下したにむ
 まて十七八人の女たよ女たよいしあひまふくどたよの祢ねを月つきまら
 ちりまればこりりままぐいしとまじしにひがれ山の僧
 ちまざりにまらうとまらうとまらうとまらうとまらうと
 つぞとこれせしものいしをりぢちいけかまこ
 子ちまこりたまふくどまらうとまらうとまらうとまらうと
 ながさまこいおまらうとまらうとまらうとまらうとまらうと
 こいなるれいおまらうとまらうとまらうとまらうとまらうと
 飲食をうらまらうとまらうとまらうとまらうとまらうと
 まらうとまらうとまらうとまらうとまらうと



りてやうと為おとむす色つゝ百人よとせられて
つらくともいふれといつてをこゝろといひ
我の女といふといつとぞふ人れおひつめ
ふつり楊貴妃の美人も死のりとならだつさう
うつられも玉に魚とよめらるいよとさゆづく
幸も継子を終へて殺しぬらばはくまぬ人も
や

賢かろうか慈母人情よく知り幼女をまかす
女婦らうしてやういふまにきこまう今又う
てとこれいふとん

